コンベンション情報誌

神々の郷

Vol. 107
2025 April
Matsue Convention Bureau
Kunibiki messe

新たに開催が決定したコンベンション

International Conference on Analog VLSI Circuits (AVIC 2025)

▶日　　程　2025年10月20日(月)～2025年10月22日(水)
▶会　　場　くにびきメッセ
▶参加予定人数　60人
▶内　　容　AVIC2025（アナログ集積回路に関する国際会議）は、最先端集積回路の設計法、試作評価などを発表、議論する国際会議で、今年で26回目を迎えます。日本を中心にアメリカ、フランス、タイ、台湾、マレーシアなど世界中の様々な国からの参加者があります。

International Symposium on Solid State Chemistry (ISSSC-2025)

▶日　　程　2025年12月1日(月)～2025年12月5日(金)
▶会　　場　くにびきメッセ
▶参加予定人数　200人
▶内　　容　ISSSC-2025は、固体化学分野で世界をリードする各国の研究者が一堂に会し、最新の研究成果について議論する国際シンポジウムです。新物質や電子物質に関する基礎的な内容から、電池・触媒などエネルギー材料への展開、また複合アニオン化合物の最近の進展など、幅広いトピックが取り上げられます。2023年の中国・桂林市に続き、第2回目の開催となります。
シンポジウムのWebサイトは、http://www.ehcc.kyoto-u.ac.jp/ISSSC2025/です。

IME2025に出展しました

2月13日に東京国際フォーラムで開催された「第34回国際MICEエキスポ（IME 2025）」に出展しました。

当商談会は、全国のコンベンション推進機関等が出展をする、国内最大規模のMICE関連の商談会です。今回当ビュローは、学会関係者等15件のバイヤーと商談を行いました。中には、今後島根県開催が有望な学会も数件あり、有意義な商談を行うことができました。

また、商談会開催前に行われた、JNTO主催の「ビジネス・エクスチェンジ」にも参加し、新たな国際会議の情報を収集しました。

今後はこれをきっかけに、より多くのコンベンションを誘致してまいります。

2024年度くにびきメッセ賛助会員報告会を開催しました

３月17日に、くにびきメッセ賛助会員を対象とした報告会を開催しました。

当日は、コンベンション主催者の方にもご参加いただき31名の出席者をお迎えし、コンベンションに関する具体的な成果や今後の展望について説明をしました。その後、くにびきメッセの会場視察を行いました。

報告会の後には、出席者の交流会を行い、今後の協力関係に繋がる良い機会になったと思います。

今後も定期的にこのような機会を設け、皆様との連携を強くしていきたいと考えております。

Topics

松江市出身の東京大学柴田直哉教授が島根県ふるさと親善大使「遣島使」に就任されました。2023年6月には国際会議「IAMNano 2023」をくにびきメッセにて開催され、同年に第113回日本学士院賞を受賞されています。

2025 年度 一般財団法人くにびきメッセ人事異動

〈退職〉
誘致統括官　　原　利一

「島根県学会・コンベンション開催支援事業費補助金」制度の見直し

「島根県学会・コンベンション開催支援事業費補助金」制度が見直されました。

見直し内容は、その他のコンベンション補助金の島根県東部で開催される国内規模の大会及び会議（スポーツ大会含む）で、2025年４月１日から廃止になります。島根県西部・隠岐地域と国際大会及び学会開催補助金については変更ありません。

松江市の「松江市コンベンション開催支援事業補助」制度については変更ありません。

詳細につきましては、事務局までお問合せください。

誘致支援課　0852-32-1903　　https://www.matsue-cvb.jp/

くにびきメッセ関連情報　「ワンダフルフェスティバル」

くにびきメッセにて、２月 24 日(月)に山陰中央新報社が主催する「ワンダフルフェスティバル」が開催されました。

こちらのイベントは「親子で学び・楽しむ」をテーマに、ステージイベントや展示ブースが行われました。子どもに人気の「わんだふるぷりきゅあ！ ショー」、「仮面ライダーガヴ ショー」の他に、パパママの子育てに役立つブースや、縁日を楽しめるキッズブースもありました。

食のコンテンツは「チーズ」をテーマに、山陰のグルメ店舗が多種多様なメニューを販売する「チーズフェスタ」が開催され、子どもから大人まで多くの方に楽しんでいただきました。

2025 年度も、大展示場では多くのイベントが予定されています。ぜひ、くにびきメッセにお越し下さい。

しまねの伝統工芸

出雲獅子頭

獅子舞といえば、お正月などに玄関先や路地で、赤い面の大きな口に、頭をこつんと噛まれた経験をお持ちの方はどの位いらっしゃるのでしょうか。噛まれたことで悪霊や厄を取り除き無病息災を祈ると言われています。

獅子頭は、祭礼行事の行動を先導し、獅子の力で神の進む道の邪気を祓います。日本では奈良時代に作られたものが残っています。島根でも多くの獅子頭が作られました。そのいくつかは、古くなり舞いの場では使用されなくなってもなお、神宝のように保管されたそうです。

たたら製鉄で知られる奥出雲にある横田八幡宮では、少し前に長く伸びた顔つきの獅子頭が保管されています。こちらは、鎌倉幕府第五代執権北条時頼の側室、讃岐の局奉納だと言われています。

隠岐の島の眠り仏の舞では、二人の袖なし姿の童子の眠りを覚ます役で獅子頭が登場します。この獅子の面は東南アジア系でしょうか。

出雲地域では出雲市在住の木工の名匠　中尾 芳雄氏(彫号 中尾芳山)が「出雲獅子頭の製作に携わっておられます。

このあたりの獅子舞は、二人立ちの獅子舞とよびます。神社や家などを回ります。

中尾さんの獅子頭は、一本の桐や檜から丸太彫りをします。強度が強くなります。口を開けると連動して耳も動くのが特徴です。神社に伝わる規格に対応させることもあります。縦横20㎝ぐらいの置物サイズも制作されています。

2005年（平成17年）3月24日しまねの伝統工芸に指定されました。

現在は獅子頭や神楽面を作る方も少なくなり、他の地域からの注文も多くなっているとのことです。

出雲市大津町朝倉の中尾芳雄氏の獅子頭。これからも永く制作されますように。

松江コンベンションビューロー 一般財団法人くにびきメッセ
〒690-0826　島根県松江市学園南１丁目２番１号
TEL.0852-32-1903　　FAX.0852-22-9219
https://www.matsue-cvb.jp/
E-mail：messe@sx.miracle.ne.jp

コンベンション開催支援に関する情報は、ホームページをご覧ください。